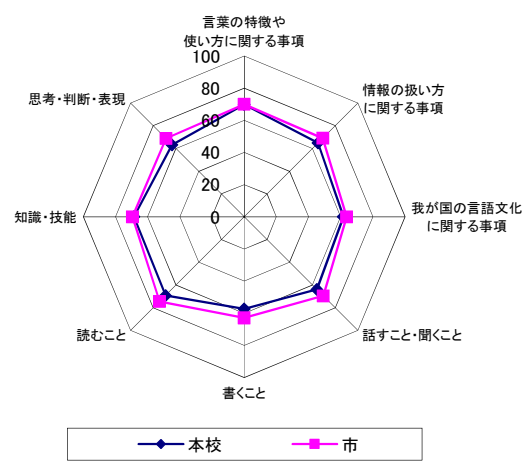


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.8	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	65.0	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	61.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	63.9	69.5	71.5
	書くこと	57.2	62.8	67.1
	読むこと	69.2	74.4	73.7
観点別	知識・技能	68.6	69.4	71.9
	思考・判断・表現	63.3	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

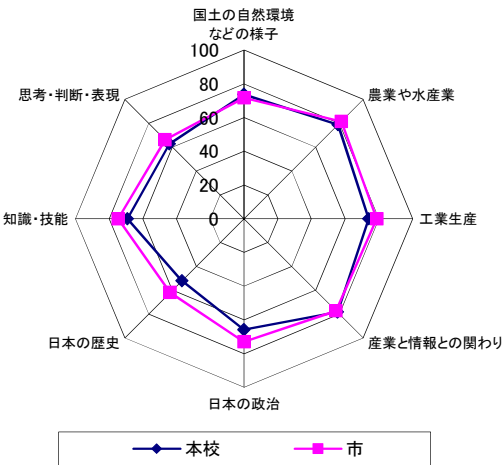
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べてほぼ同様であった。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を書く問題では、市の平均より6.7ポイント高く大きく上回っていて、適切に使うことが出来ている。 ○漢字の読み方や熟語の成り立ちについて理解している。音読や漢字の指導を継続的に行った成果であると考えられる。	・文章を書くときに既習漢字を意識的に書くよう指導を続けていく。 ・定着を図るため漢字の小テストをに行ったり、同じ漢字を使った学習やテストを継続して行う。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて4.2ポイント低く、やや下回る。 ●目的や意図に応じた、書き方の工夫を読み取る問題では、市の平均とほぼ同様である。文章と図や表などの情報の関係性について読み取ることに課題が見られる。	・複数の情報を関連付けながら読み取ったり、問われていることを考え整理したりしながら、筆者の考えを正しく捉える活動を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べてほぼ同様であった。 ●和語、漢語、外来語を選択する問題では、市の平均より2.1ポイント低くやや下回っていて、語句の由来に関心をもつことに課題が見られる。	・家庭学習などで、児童自身が語句の由来などを調べる学習を推進し、語句に興味をもつようにする。 ・漢字指導の際には、字の成り立ちや意味を児童に確認しながら、指導を行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて5.6ポイント低く、大きく下回る。 ○インタビューの内容を聞き取る問題では、市の平均より5.5ポイント高く大きく上回っていて、意図に応じて質問を工夫することは出来ている。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えて書く問題では、市の平均より14.4ポイント低く大きく下回っていて、必要に応じて短い言葉に要約することに課題が見られる。	・引き続き、話を聞くときには、話し手の意図を意識的に考えながら聞くことを指導していく。 ・話の要点を捉える学習を授業の中に積極的に組み込み、要約する力を身に付けるための指導を続けていく。 ・大事なことを落とさず聞けるようにするために、国語の学習だけでなく、他の教科や普段の学級活動の中で、話の聞き方を継続的に指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて5.6ポイント低く、大きく下回る。 ●指定された長さで文章を書く問題では、市の平均より9.9ポイント低く大きく下回っていて、文章力に課題が見られる。 ●段落に分けて文章を書く問題では、市の平均より6.9ポイント低く大きく下回っており、段落の理解に課題が見られる。	・作文を書くことに対する抵抗感をなくすために、行事ごとに作文を書くことだけでなく、日記や振り返り、自分の考えをノートに書く活動など、日常的に経験させる必要がある。 ・段落を意識して、作文を書く指導を続けると共に、段落を意識しながら、読むことを指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて5.2ポイント低く、大きく下回る。 ●登場人物の心情について読み取る問題では、市の平均より7.4ポイント低く大きく下回っていて、登場人物の描写を基に捉えることに課題が見られる。	・読書活動を引き続き、推進していく。 ・登場人物の背景や描写、心情を叙述に沿って読み取る学習を更に続けていく。 ・家庭学習などで語句の意味を自分で調べる学習を推進し、接続詞、指示語が含まれた基本的な文章の読み取り方についてしっかりと確認しながら読解を進めていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.7	71.6	67.5
	農業や水産業	78.9	81.5	82.1
	工業生産	73.9	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	78.3	77.2	68.2
	日本の政治	65.8	73.1	77.9
	日本の歴史	52.1	62.0	65.8
観点別	知識・技能	69.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	62.7	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

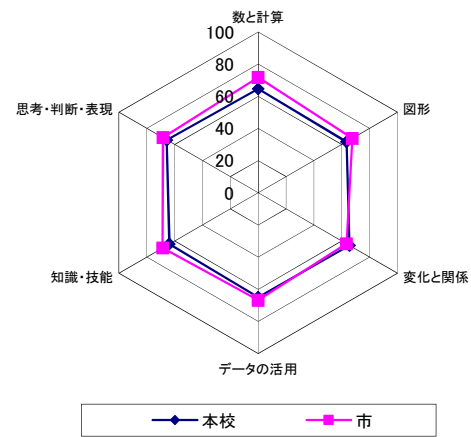
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均と比べて2.1ポイントとやや高い。 ○日本の川の名前についての問題では、市の平均を11.2ポイント上回る。日本の国土についての問題を活用し、指導してきた成果であると考えられる。 ●日本の周辺の海洋名についての問題では、市の平均を7.4ポイント下回っていて、地理的な知識の理解に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地理的な学習の時だけでなく、様々な学習の機会に地図を開き、場所を確認して印を付けるなど、地理的な感覚を養っていくようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べて2.6ポイントとやや低い。 ●カントリーエレベーターの役割に関する問題では、市の平均を10.8ポイントと大きく下回っていて、施設の役割の理解に課題がみられた。	・それぞれの施設の役割や地産地消などの取り組みについて復習する。 ・授業の中で、資料から読み取れる情報を整理、分析して関連付け、複雑な社会事象について読み取りながら、自分の考えを書く活動を取り入れていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べて4.8ポイントとやや低い。 ●自動車の輸送手段についての問題では、市の平均を7.2ポイントと大きく下回っていて、自動車の出荷の工夫を表現することに課題が見られた。 ●日本の輸出品の変化についての問題では、市の平均を6.5ポイント下回っていて、資料を読み取る能力に課題が見られた。	・自動車についての学習では、直接工場を見られる機会が少ないため、デジタル教科書の動画やインターネットの資料を使うなど指導の充実を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均とほぼ同様である。 ○コンビニエンスストアの発注に情報を活用することについての問題では、市の平均を3.9ポイント上回る。情報機器を活用する現場やそのメリットについての内容を扱う授業を充実させた成果であると考えられる。	・資料の読み取りだけでなく、資料から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を増やしていく。また、情報メディアの種類やその違いに関する学習の充実を図る。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べて7.3ポイント低く、大きく下回っている。 ●日本国憲法についての問題では市の平均を8.3ポイント下回っていて、日本国憲法の原則への理解に課題が見られた。 ●税金についての問題では、市の平均を12.5ポイント下回っていて、税金の使われ方に関する理解に課題が見られた。	・日本国憲法の三原則や税金の働き、政治の仕組みについて確実に理解するために、単元で学習した内容を、自分たちの生活の場面や日々のニュース内容に置き換えながら考える活動を継続的に取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べて9.9ポイント低く、大きく下回っている。 ●室町時代の文化についての問題では市の平均を18.1ポイントと大きく下回っていて、当時の著名な人物と建築物の関係に関する知識に課題が見られた。 ●安土桃山時代、江戸時代の出来事に関する問題では、市の平均を15.7ポイントと大きく下回っていて、時代の大まかな流れの理解に課題が見られた。	・日本の政治的な権力の移り変わりについて、時代の流れとともに連続的に捉えられるように、歴史的に著名な人物と関連させながら、時代背景や歴史的な事象が起こった要因などをしっかりおさえて繰り返し学習を進めていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.7	71.8	76.2
	図形	63.3	67.7	67.8
	変化と関係	65.6	63.4	62.7
	データの活用	65.0	66.7	61.5
観点別	知識・技能	63.8	68.6	70.7
	思考・判断・表現	65.7	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

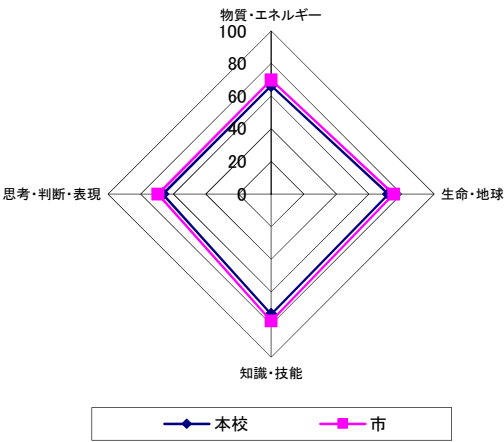
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて7. 1ポイント低く、大きく下回っている。 ○分数のわり算の文章問題にあった図を選ぶ問題では、市の平均を6. 4ポイント上回っている。授業の際に、問題場面を挿絵やデジタル教材の図で示し、問題を捉えさせてから考えに入った成果であると思われる。 ●分数÷分数の計算の問題では、市の平均より22. 4ポイントと大きく下回っている。基礎基本の計算問題への取り組みに課題が見られる。	・基礎的な計算の定着を図るために、計算プリントを行ったり、授業内で計算の仕方の確認をしたりする。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて4. 4ポイント低い。 ●三角形の外角を求める問題では、市の平均を5. 6ポイント下回っている。三角形の角度の理解について課題が見られる。 ●線対称な図形の対象の軸を求める問題では、市の平均を9. 2ポイントと大きく下回っている。対称な図形の性質についての理解に課題が見られる。	・図形の学習においては、実物を利用しながら、それぞれの図形の性質を確かめる学習を重点的に行い定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて2. 2ポイント高い。 ○基準量と比較量から割合を求める問題では、市の平均を6. 2ポイント上回っている。割合の求め方を授業の度に確認していた成果であると思われる。 ●時速を分速や秒速に直す問題では、市の平均を3. 1ポイント下回っている。速さの単位の関係や求め方の理解に課題が見られる。	・速さの問題など、日常生活でも扱う問題が多いため、算数の時間以外でも取り上げ、知識の定着を図っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて1. 7ポイント低い。 ○ドットプロットから中央値を読み取る問題では、市の平均を2. 2ポイント上回っている。中央値の意味や表の見方を重点的に指導してきた成果であると思われる。 ●折れ線グラフを読み取る問題では、市の平均を10. 8ポイントと大きく下回っている。折れ線グラフの性質の理解に課題が見られる。	・算数に限らず、社会などの単元でもグラフはよく出てくるため様々な場面において、表やグラフに慣れ親しむようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.4	69.9	67.8
	生命・地球	71.8	75.1	73.7
観点別	知識・技能	73.8	77.8	78.4
	思考・判断・表現	66.4	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて3. 5ポイントとやや低い。 ○ふりこのきまりを利用して、メトロノームのテンポを推測する問題では、市の平均を4. 4ポイントとやや上回っている。実験の結果をきちんと記録し、考察する活動を実際に行った成果であると考えられる。 ●食塩の溶け残りを無くす方法を考える問題では、市の平均を14. 4ポイントと大きく下回っていて、物質の特徴に合わせた物の溶かし方に関する理解に課題が見られた。	・物の溶け方の単元の学習における知識の定着を図るため、当該学年以前の物質に関する学習の復習から学習を始めるようにする。 ・正しく実験ができる技能の向上を図るために、理科の学習で実験をする際に、比較して検証をするためには、条件を変えるものと変えないものがあることなどを確認したり、実験の結果とその後の考察についておさえたりしていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて3. 3ポイントとやや低い。 ○空気の循環による部屋の換気の頻度を分析する問題については、市の平均を5. 8ポイントと大きく上回っている。部屋の換気について、実体験と結びつけながら考えたことが知識の定着につながったと考えられる。 ●植物の根から取り込まれた液体が運ばれる場所に関する問題では、市の平均を10. 6ポイントと大きく下回っていて、植物のつくりと働きへの理解に課題が見られた。	・実際に実験、観察をするだけでなく、実際に観察することが難しい場合には、ICT機器を活用してデジタル教材を視聴したり、教科書のまとめの部分をしっかりと確認することで、正しい実験の方法と結果を結び付けられるようにしていく。 ・実験の結果を予想する際に、根拠をしっかりと考える時間を取り、結果と照らし合わせて正しい知識を理解できるようにおえていく。